

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一5:9～13「教会とこの世」

[9-10]「私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないようにと書きました。それは、世の中の不品行な者、貪欲な者、略奪する者、偶像を礼拝する者と全然交際しないようにという意味ではありません。もしそうだとしたら、この世界から出て行かなければならないでしょう」

パウロは以前このコリント人への第1の手紙以外にもう一通手紙を書き送っていた。それは現存していないが、パウロがここで繰り返しているように、不品行な者たちと交際しないようにとの内容であったことがわかる。ところがコリント人たちがその内容を誤解していたので、彼はここでもう一度「不品行な者たちと交際しないように」ということの本当の意味を忍耐強く説き勧める。

[11]「私が書いたことの本当の意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしる者、酒に酔う者、略奪する者がいたなら、そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてはいけない、ということです」

対象者は教会外の人々ではなく、「兄弟と呼ばれる者」、つまり教会員のこと。コリント教会には残念ながらこのような人々がいた。彼らは自らの行いで、その信仰を否定していたのである。「不品行な者」とは道徳的に墮落している者。→5:1 「貪欲な者」とは物質欲に走り、足ることを知らない者。→1テモ6:9～10、ヘブル13:5 「偶像を礼拝する者」とは真の神以外のものを神として礼拝する者。→出エ20:3～5、黙示録22:15

「人をそしる者」とは人のことを悪く言い、対人関係や主にある聖い交わりを破壊してしまう者。「酒に酔う者」とは特に常習的な大酒飲みのこと。→エペ5:18、信仰者は酒に酔うのではなく御霊に満たされて、御霊の実を結ぶような生き方をすることが大切。→ガラテヤ5:22～23 「略奪する者」とは人のものを無理やり奪い取る者。

パウロが言いたいことは、以上のような人々が教会員、兄弟姉妹といわれる人々の中にいるならば、そのような者とはつきあってはいけない。共に食事もしてはいけないということである。神の教会は人間的な馴れ合いや人情にかまけてその進むべき方向を誤ってはならない。しかし、このような戒規はあくまでも、対象となる人々がそのさばきを通して悔い改めに導かれるためのものであることを覚えておかなければならない。

[12-13]「外部の人たちをさばくことは、私のすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。外部の人たちは、神がおさばきになります。その悪い人をあなたがたの中から除きなさい」

教会の外部の人々、この世の人々は最終的には神がおさばきになる。→黙示録20:11～15 教会の内部で罪を犯している信者が厳しくさばかれるということは、実は彼はそのさばきを通して悔い改めに導かれる恵みの中にあるのである。

私たち自身がこのようなさばきの対象者とならないように、いつもイエス・キリストの十字架を仰ぎ、御霊によって歩み、正しい信仰生活を送る者とならなければならない。

日本長老教会法 訓練規定 第6章 教会の譴責

6-1 (譴責の目的)

教会の譴責の目的は、次の五つである。第一に、罪を犯した兄弟(姉妹)たちを矯正し、回復するため。第二に、他の者たちが同様の罪を犯すことを思いとどまらせるため。第三に、主の契約の共同体を損なうに至る恐れのあるパン種を除くため。第四に、キリストの栄誉と福音に対する告白を擁護するため。第五に、もし神の契約とその証印が、かたくなに罪を犯し続ける者たちによって冒瀆されるままにしておけば、教会に下るであろう神の御怒りを防ぐため。(ウェストミンスター信仰告白30章3項)

これら五つの目的はすべて、罪を犯している兄弟(姉妹)が罪を悔い改め、主の恵みによって、御前に回復されることによって達成されるようになる。しかし、実際には、その兄弟(姉妹)が罪を悔い改めない場合があるので、譴責の目的が五つに区別されている。